2021 年度実施概要

学校名

宿毛市立咸陽小学校

採択活動名

自分が好き　友達が好き　故郷（ここ）が好き　～この海を守り継ぐために～

実施単元　※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. ぼくらは海の探検隊　　～ぼくらの遊び場宿毛湾～　　【海に親しむ】	3	総合
2. ぼくらの海を　～知りたい　伝えたい　～　　【海を知る】	4	総合
3. 広がれ　宿毛の魚プロジェクト ～人と海のつながりを見つめて～　【海を利用する】	5	総合
4. 砂浜清掃プロジェクト　～脇本の浜から宿毛湾の環境を考える～　【海を守る】	6	総合

取り組みの概要

本年度は、このプログラム３年目の年であった。新型コロナウイルス感染拡大により予定を変更しながらの実施となったが、総合的な学習の時間のカリキュラム使い子ども達の身近にある「海」を中心として学習を行ってきた。

３年生においては、「海に親しむ」をテーマとして、子ども達と海を結び付ける活動を中心に単元を構成していきた。学校から２㎞離れたところにある藻津の浜辺を調査活動の場と決め調査を進めてきた。特に貝類を中心として調査活動を行ってきた。捕まえた生き物は、専門家を 8 回招いて一緒に調べたり、標本を作ったり展示方法を考えたりしてきた。身近な海を通したこの調査の一連の活動が、本校の系統的に海洋教育を進める学習活動の入り口となった。

４年生では、「海を知る」をテーマに単元を構成した。本校の校区周辺には古くからある「藻津漁港」、平成になって完成した「宿毛新港」、地域の漁業の中心である「片島漁港」、平成になり地域の漁港の水揚げを集約するために出来た「すくも湾漁港」などがある。それぞれの港の特徴や役割を調べる活動を通し比較・整理していくことで、宿毛湾の恵みを中心に人々が港を利用し生活の糧としてきたことを子ども達と共に学習した。最後には、新型コロナウイルス感染拡大のため大々的な発表はできなかったが各学年間で取り組みを発表し合った。

宿毛湾は県内でも有数の養殖業が盛んな地域である。そこで、５年生では「海を利用する」をテーマに学習を行った。本年度も、漁業普及指導員を講師として招きいろいろな漁法、餌や魚の種類、出荷方法等に目を向けさせた。特に、環境を意識させるため、餌に関わる仕事をしている方を招いて、餌の変化によって宿毛湾の環境及び水質が変化してきたことや食の安全を考えていかなければならないことも学習した。これらの学習は、宿毛湾で盛んな養殖業を環境や安全の視点から見つめることに繋がり、その重要性を認識することに繋がった。社会科との関連を図り国内の水産業の漁獲高にも目を向けさせ、日本の漁業が置かれている現状についても考えさせた。

６年生では、これまでの学年のまとめとして「海を守る」をテーマに活動を行った。３年生が活動を行

った藻津の浜辺に打ち上げられているゴミを拾う活動からそのゴミ問題等を探究していく中で、海は誰かが守ってくれるものではなく海を守るのは自分自身であるということを意識づけてきた。また、海に打ち上げられたゴミは自分達の生活と密接に関連していることを学んだ。中でも、マイクロプラスティック問題に関心を持ち、世界で起こっていることが自分達の身近でも起こっていることに気が付いた。また、瀬戸内にあるたつの市立新宮小学校と chrome ブックを使ってのオンライン授業を行い瀬戸内海の現状に津ついて考えたり、沖縄にあるジャムステックの GODAC ともオンラインでつなぎ深海のごみやプラスティック問題について協議した。このようにオンライン授業を行い各地の現状や様々な意見交流から多面的に現在の海洋問題について考えることが出来た。そして、この宿毛湾を守り継ぐために自分たちに求められること、食物連鎖の頂点に立つ人間にはどのような行動が求められるのかを考える機会となった。